

教職コンソーシアム通信

# 学びの架け橋



人にまっすぐ。  
大阪教育大学

- 01 教師にまっすぐ修了式を実施
- 02 リレーエッセイ
- 03 加盟校出身学生の紹介
- 04 交流事業の紹介
- 06 加盟校の取組紹介
- 07 大教大トピックス／編集後記

## 教師にまっすぐ修了式を実施

教師にまっすぐ修了式を12月14日(土)に柏原キャンパスで実施しました。



## 根っこをつくる三年間

大阪教育大学 理事(附属学校担当)・副学長 藤井 睦子

一昨年春に、大阪教育大学で副学長・教授としての勤務をスタートしました。さらに昨春、附属学校園担当の理事に就任し、3校舎(天王寺・池田・平野)の高等学校長職も兼務することになりました。3校舎のうち附属天王寺校舎は、私の母校です。今も昔も、自主自律の校風のもと、生徒の主體的な学びを重んじる学校です。懐かしい校舎やグラウンドの風景、変わらぬ制服に身を包んだ生徒たちを見るにつけ、予想していなかった今の仕事に、不思議な巡りあわせを感じます。

昨年12月には、3校舎と千里高校や高槻高校等との合同で、生徒による探究学習のポスター発表がありました。生徒たちの堂々とした説明ぶりや各自のテーマに関する深い考察に感心しました。「教師にまっすぐ」に参加する府立高校生徒たちのエネルギーにも、いつも元気をもらっています。

こうした生徒たちの活躍の一方、自分自身の高校時代を振り返ると、何とも言えない居心地の悪さが沸き上がります。地元の公立中学校から天王寺校舎の外部入学試験を受験、合格に喜んで入学したものの、卒業まで、どうも高校生活にじっくり馴染めなかったという思いが残るからです。

多様な友人もでき、学校独自の行事や委員会活動には積極的に参画しました。行事当日だけではなく、実行までの過程でも、たくさんの得難い経験をしました。また、当時から探究的学習が盛んで、調べ学習や討論、レポートを通じて得た学びの記憶が今も残っています。傍目には、私は、高校生活を満喫する元気一杯の生徒だったでしょう。が、実のところは、悶々とした悩みの多い時期でした。スポーツや楽器や勉強に秀で、議論をすれば大人顔負けの意見を展開する、多士済済の同級生たちに圧倒され、それに比べて、自分には誇れる個性も強い自我もない気後れがあったのです。劣等感を糧に努力すればよかったのですが、思春期に回り道はつきもの。自由な校風にかまけて、登校時間や出席などのルールを守れない時期もありました。

志望大学に合格する見込みもないまま卒業式を迎え

ましたが、高校生活が終わることに少しホッとしていました。卒業文集には、「『思考的成長を遂げた後の、行動へ発展させる力のなさ』を反省する」という、かなり意味不明な文章を投稿しています。

ただ、振り返ると、あれほど「自分とは」に執着し、考え続けたのは高校時代だけです。「教育と福祉に関わる公の仕事」という将来の志望も、あれやこれやと考える中で決めました。もちろん、当時考えたこと、友人に話したことや行動は、青臭く未熟で、思い出したら身が縮むような居心地の悪さは消えません。が、「人と違う自分」を受け入れ、自分なりの進み方を探すための、成長のプロセスだったことは確かです。

あわせて、混沌とした内心を抱えた生徒たち(私を含めて)をサポートしてくださった、先生方の教育力・指導力があってこそこの高校生活でした。先生方との交流は今も続いています。よくぞ長い目で温かく見守っていただいたという感謝を改めて感じます。先生方だけではありません。行政の立場で新型コロナ対応を担当した時、多くの同窓生・同級生が、物資や医療等で協力の手を差し伸べてくれ、各地からたくさんのエールをもらいました。自分で思う以上に、高校時代のつながりが人生の底流にあることを実感しています。

校長着任後すぐ、天王寺校舎の入学式で式辞を述べました。内部進学者131名・一般入学者29名、計160人の新入生です。その姿に、期待と不安を持って壇上を見上げる47年前の私が重なりました。例え自信が持てず失敗や回り道をしても、学び、考え、行動する努力を続ければ、いつか、すべてが自分の基盤だと思える時が来るでしょう。「自分の根っこをつくる三年間を大切に」と、あいさつを締めくくりました。



藤井 睦子 ふじい むつこ  
大阪教育大学  
理事(附属学校担当)・副学長

# 加盟校出身学生の紹介



こにし たかひろ  
小西 貴弘 さん

学校教育教員養成課程 次世代教育専攻 教育探究コース 1 回生  
大阪府立八尾高校 令和6年3月卒業

## 高校時代の思い出は

部活動が特に印象に残っています。放送情報部に所属し、主に文化祭や体育祭などの行事で、音響機材の運営に携わっていました。他の生徒より早く登校して準備をし、行事の進行に貢献することにやりがいを感じていました。また、機材設営や、音が出ないなどのトラブル発生時の対応などを部員と協力して行えたことが大切な思い出です。

## なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？または将来の目標

学校教育について探究できることに魅力を感じたからです（コース名のままですね（笑））。2回生から教育学、心理学、道徳教育学、教科教育学の4つの領域の専門的学修が始まります。私は、教育学を専攻し教育と社会との関わりについて学びたいと考えています。将来は、小学校教諭と中学校教諭（社会科）として、児童生徒の成長をサポートしていきたいです。

## コースの良いところ

「幅広い学びができること」と「先生」です。教育探究コースでは、さまざまな領域から自分の興味関心のあるものを深く学ぶことができます。また、コース専属の先生がたくさんおられ、教職教育科目群の授業も担当してくださいます。さまざまな授業で先生と関わることができ、先生が身近な存在です。私はたまたま、先生と一緒に昼食を食べることもありますよ（笑）。

## クラブ・サークルは何をやっていますか？または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

私は2つのサークルに所属しています。1つ目は、大学祭実行委員会（通称「実委」）です。私はPA部門（音響機材）を担当しています。昨年11月に開催された神霜祭（大学祭）では、雨のため、臨時の対応を行うことができましたが、無事に全3日間の行程を終えることができました。2つ目は、生協学生委員会（通称「学委」）です。学委では、生協の組合員さんに向けたさまざまなイベン

トを企画しています。委員会の掛け持ちは、正直とても疲れます（笑）。しかし、その分やりがいもあります。これからも、仲間と共に頑張っていきたいです。

## おすすめの受験勉強法

問題集と環境を整えることです。私は、総まとめ系の問題集は各教科1冊ずつしか使っていませんでした（過去問や実践演習用は除きます）。あちこち手を出してもやりきることができず、不安ばかりが募ってしまいます。なので、1つの問題集を完璧に理解できるまで取り組みました。環境については、放課後は閉門時間まで学校の自習室に、帰宅後と休日は自宅の自室という風に環境を変えて勉強に取り組んでいました。学校から自宅まで自転車で片道約40分かかっていましたが、それが良いリフレッシュになっていました。

## 大教大の良いところ

「教員になる」という同じ志を持っている人が多いことです。難しい講義や、大変な課題が課されることがありますが、同じ志を持っているからこそ、お互いに助け合って取り組むことができている。また、仲間同士で学び合えるところも良いところです。パソコンが得意な人やコミュニケーションが得意な人などから、それぞれの得意なことを教えてもらうことで、自分の強みを少しずつ増やすことができます。「同じ志を持つ仲間」「学び合える仲間」がいることは、とても素晴らしいことです。

## 大学生活を有意義に過ごすには

さまざまなことに挑戦してみましょう！大学は、高校までとは違って自由に使える時間がたくさんあります。何かボランティア活動をするもよし、資格取得に向けて勉強するもよし、興味関心のあることにどんどん挑戦してみてください。私は昨年夏休みに国家資格である「ITパスポート試験」の受験勉強を始め、同年秋には一発合格をすることができました。また、生協インターンシップの「キャリアサポーター」にも取り組んでおり、教える・伝える技術の向上に努めています。

わき すずほ  
脇 鈴歩 さん

教育協働学科 教育心理学専攻 2 回生  
大阪府立生野高校 令和5年3月卒業

## 高校時代の思い出は

高校時代の1番の思い出は、文化祭の締めくくりに行われる後夜祭です。私は高校時代、軽音楽部に所属しており、後夜祭で引退ライブを行いました。全校生徒を目の前にして、中庭で演奏したのはとても良い経験になりました。私は3年生の9月頃まで部活動をしており、勉強と両立するのが大変なときもありましたが、最後までやり切ったと思っています。

## なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？または将来の目標

公認心理師になるために必要な科目を開講している大学で心理学を学びたかったからです。また心理学の中でも、子どもや教育に関わることを専門的に学びたいと思い、この専攻をめざしました。心理学を生かせる職場はたくさんあるので、大学院に進学して公認心理師になるのかどうかはまだ悩んでいます。将来は心理や福祉、教育の現場でさまざまな子どもたちと関わることのできる職業に就きたいです。

## 専攻・コースの良いところ

心理学や教育学、福祉学を幅広く学ぶことができ、公認心理師対応カリキュラムや、社会教育士養成過程、図書館司書になるためのカリキュラムがあるところが魅力です。私もこの3つの資格を取ることができるよう励んでいます。ただし、この専攻では教員免許は取得できないので注意してください。みなさんは「教育」＝「学校教育」のイメージを持っていると思いますが、この専攻では広い意味での教育である社会教育についても学べるため、視野が広がります。

## クラブ・サークルは何をやっていますか？または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

私はフォーク集団ペンペン草（軽音サークル）と生協学生委員会という大教大のためのイベント等を企画する団体に所属しています。また長期休み中などの時間があるときには、非行少年の立ち直り支援に関わるボランティアもしています。アルバイトは個別指導塾の講師と、専攻の先生に紹介してもらった社会教育施設の管理スタッフをしています。大学生は時間がたくさんあるので、やりたいことにはなんでもチャレンジするようにしています。さまざまなことに挑戦することで人脈を広げることができるのが楽しいです。

## おすすめの受験勉強法

高校1年生も、2年生も、3年生も怠ってはいけないうちは記述対策です。共通テスト対策はもちろんですが、国公立の2次試験に向けた記述対策に手を抜かずにすることをおすすめします。私は2次試験が小論文だったので、高校1年生の頃から現代文の記述力をコツコツつけていたおかげで、共通テスト後に焦ることなく2次試験に挑むことができました。記述対策はなかなか一人でではできません。また記述力はすぐつくものではないので、早いうちから高校の先生などにどんどん添削してもらって、最終的には自分で添削できるようになるぐらいまで慣れましょう。

## 大教大の良いところ

自然豊かなところで、山の上なので静かだし、動物もたくさんいて癒されます。また大教大は真面目な人が多いというのも良いところです。ほとんどの人が教師をめざしているのでも、教師をめざしていない私もたくさん刺激をもらっています。大教大は他大学に比べて教育や学校について学べる講義が多く、1回生から教育現場に出て学べる大学です。先生もフレンドリーな方ばかりなので毎日が本当に楽しいです。

## 大学生活を有意義に過ごすには

大学生は、みなさんが想像しているよりもずっと時間にゆとりがあります。大学生活を有意義に過ごすにはあらゆることに挑戦することが大切です。みなさんよりも少しだけ心理学や生涯教育学に詳しい私から伝えたいのは、「学習」とは勉強をして知識がつくことを意味するだけではなく、経験して行動が変化することという広い意味をもっています。大学で勉強を頑張ることも大事ですが、友達と旅行に行ったり、趣味を増やしたりするのも立派な学習です。私は今年の夏休みにたくさん旅行に行くことができました。高校時代にしかできない「学習」もきっとあります。高校生活、大学生活といった「今しかできないこと」を全力で楽しみましょう。





## 「大阪教育大学キャンパスガイド 2024」を開催

府立高校教職コンソーシアムの加盟校及び本学附属高等学校の高校生を対象とした「大阪教育大学キャンパスガイド～大教大をまるごと体験しよう!～」を10月20日(日)に柏原キャンパスで開催しました。当日は約200人の高校生と教員が参加し、約30人の大教大応援団(学生サポーター)の協力のもと、本学の魅力を体験できるさまざまな催しを実施しました。

午前には、教育協働学科 芸術表現専攻 音楽表現コースの学生による金管アンサンブル演奏で幕を開け、大継章嘉学長補佐が歓迎の挨拶を述べました。続いて、応援団による大学紹介があり、学部生2人と院生2人が本学の魅力をプレゼンテーションしました。その後、高校生はグループに分かれ、応援団の案内でキャリア支援センターやクラブ活動などを見学し、音楽棟では同コースの学生と夕陽丘高校の生徒による演奏を聴きました。また、昼食は応援団と大学食堂「Dining TERRA」でとり、交流を深めました。

午後からは、文系と理系に分かれて特別講座を実施しました。箱崎雄子教授(多文化教育系)による文系特別講座「発音の基礎・基本 - これだけで英語らしく聞こえる -」では、高校生たちが3人のグループに分かれ、日本語の発音と似ている英熟語を例に、英語の発音の種類について学びました。

町頭義朗教授(理数情報教育系)による理系特別講座「論理と数理パズル」では、フィボナッチ数列を用いた京都大学の入試問題や、赤と白のカードを使い、他者のカードは見えるが自分のカードは見えない状況で自分の色を当てる「数理パズル」に挑戦しました。

その後、「めざす教師像」をテーマとしたパネルディスカッションでは、四條畷高校1年生の稲森天さん、岸和田高校2年生の山本理夏子さん、千里高校2年生の山田佳輝さんが、「どうして教師になりたいと思ったのか」「どんな先生になりたいか」について語り、それに対して教員や応援団が感想や激励の言葉を述べました。続いて、応援団が高校生からの質問に答えるコーナーを実施し、「大教大に入って良かったと思うところは何ですか」「教育実習って大変ですか」などの質問に答えました。最後に、槻の木高等学校の青竹二郎校長が閉会の挨拶を述べて、すべてのプログラムが終了しました。

参加した高校生からは「キャンパスガイドを通して、教師になりたいという思いがさらに強くなりました。また、いろいろな方の考え方などを聞くことができ、もっと自分も努力しようと思いました」「特別講座の40分間が一瞬に感じました。キャンパス内も歩くことができ、どんな大学なのかを肌で感じることができました」などの感想が寄せられました。



「Dining TERRA」での昼食の様子



応援団の案内でキャンパスを見学する高校生たち



パネルディスカッションの様子



### 教師にまっすぐ 修了式を実施

「教師にまっすぐ」の第4回を12月14日（土）に柏原キャンパスで実施しました。本プログラムの最終回となる今回は、課題の小論文について振り返るとともに、修了式を行いました。

2人の学生による司会で本プログラムは始まり、大継章嘉学長補佐が開会の挨拶を述べました。その後、参加した高校生は17班に分かれて、各自が作成した小論文の発表を行いました。各班では大学生が、小論文のテーマの深堀や高校生の交流のサポートを行いました。

続いて、総合教育系の瓜生彩子教授が小論文の講評及び表彰式を行いました。表彰式では5人が優秀賞として表彰され、その中でもグッドモデルに選ばれた大阪府立豊中高等学校の木村季菜さんが自身の小論文を口頭発表しました。その後、大継学長補佐が代表生徒の木村さんに修了証書を授与しました。

最後に、大阪府立槻の木高等学校の青竹二郎校長が「受講生の皆さんには、多くの学びがあったと思います。将来、この中から多くの教員が誕生すればとても嬉しいことですが、この『教師にまっすぐ』の受講が、他のキャリアの始まりになれば、それも素晴らしいことだと思います」と挨拶を述べ閉会しました。



班ごとの交流の様子



木村さんによる小論文の発表



表彰式の様子（八尾高校 林さん）



表彰式の様子（高槻北高校 上林さん）



修了証書授与の様子



開会の挨拶をする青竹校長



記念撮影

### ～作文コンクール Leading to the Future2024～ 未来に向かって — 教育・夢・感動 — 表彰式を実施

作文コンクール2024 “Leading to the Future”の表彰式を、12月24日（火）に柏原キャンパスで実施しました。式には、大阪府立八尾高等学校の林茉奈実さん、大阪府立高槻北高等学校の上林奏翔さん、本学から岡本幾子学長、藤井睦子理事・副学長、大継章嘉学長補佐、山崎政範学長補佐、瓜生彩子教授が出席しました。

本作文コンクールは「未来に向かって — 教育・夢・感動 —」というテーマで、府立高校教職コンソーシアム加盟校及びすべての府立高校・附属高等学校・高等部から、将来教職をめざす生徒を対象に募集したもので、計6校から51件の応募があり、厳正な審査のうえ最優秀賞・優秀賞・佳作を決定しました。

式では最初に、岡本学長が優秀賞、最優秀賞を発表し、表彰状・トロフィー・副賞を各受賞者に授与しました。その後記念撮影を行い、続けて大継学長補佐が受賞作品の概要を説明し、出席者全員で懇談を行いました。

懇談の中で岡本学長は「作文を読ませていただいて、教師になりたいという夢を持っていただいていることをとても感じる事ができてとても嬉しいです。この夢が大きく花開くように、引き続き研鑽していただきたいです」と、激励しました。

受賞した林さんは「皆さんのお話を聞いて、先生は良い仕事だなと改めて感じました。周りの人がたくさん私のことを応援してくれているので、将来先生になったら、今度は私が生徒を応援することでこの気持ちを繋いでいきたいです」と述べ、上林さんは「時には挫折することもある大変な仕事だとは思いますが、その中でも周り協力しながら生徒を育てていくことができる先生になりたいです」と決意表明をしました。

受賞者及び  
最優秀賞作品は  
こちらをご覧ください





# 加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES



## 市岡高校 『自彊<sup>じきょう</sup>の精神』～可能性にチャレンジ！～

大阪市港区にある市岡高校は明治34年(1901年)に旧制市岡中学校として創立され、令和7年度で124年目を迎えます。校章や硬式野球部の帽子に用いられる三本線は大阪市内で3番目に設立された中学校(旧制)であることを意味しています。学校創立以来、自彊の精神(自ら努め励み、志や夢に向かって努力する自主自律の精神)を育むことを教育目標に、勉学はもちろんのこと、部活動、学校行事にも生徒たちは日々全力でチャレンジしています。



マスコットキャラクター「じっきょん」

ダンス部は「全日本高校ストリートダンスクライマックス」及び「インターナショナル・ジャパン・ダンスドリル競技大会」の関西予選を勝ち抜け全国大会に2度出場しました。

また、硬式野球部は、「令和6年度秋季大阪大会」での活躍が認められ、「第97回選抜高校野球大会」の「21世紀枠大阪府推薦校」に選出され、大阪府高等学校野球連盟および毎日新聞社より表彰されました。



硬式野球部

40年以上続く行事として、2学期の初めに大阪市福島区にあるザ・シンフォニーホールで音楽鑑賞会を行って



音楽鑑賞会

います。吹奏楽部の演奏披露の後、大阪フィルハーモニー交響楽団によるクラシック演奏を全学年、保護者、卒業生で毎年鑑賞しています。

3学期には大阪市北区中之島にある中央公会堂にて1、2学年で合唱大会を行います。早い時期から各クラス練習に励み、保護者の参観もあって大変盛り上がる伝統行事となっています。



中央公会堂



合唱大会

### 単位制のメリットを活かした学習活動

市岡高校は平成21年度(2009年度)より全日制の普通科単位制高校に改編され、単位制のメリットを最大限に生かし進学に特化したカリキュラムを編成しています。



スタディールーム

80科目以上の選択科目を設け、3年次には授業時間割の半分以上を選択科目枠に設定し、大学受験などで必要な科目をきめ細かく選択できるようになっています。また、クラス規模に対する教員数が他校に比べて多く配置されているため、選択科目1講座の受講人数が10名～20名程度と少人数での授業が可能で非常に効率良く効果的な授業を展開しています。

授業以外の学習活動として、年間を通じて放課後や長期休業中に計画的に進路希望別講習会や勉強合宿を行い、早朝から放課後に自主学習で利用可能なスタディールームやアクティブラーニングスペースなどの学習環境を整備しています。生徒たちは自身の第一希望に最後までこだわり日々頑張っています。

また、毎朝始業前に読書時間を設けるなど、図書活動も盛んに行われており、「子供の読書活動優秀実践校」として、令和4年度に文部科学大臣賞を受賞しました。

### 伝統の部活動・学校行事

市岡高校には運動部、文化部合わせて30以上の部活動があり、9割近くの生徒が放課後にいきいきと活動しています。



全国大会出場の横断幕

令和6年度には、競技かるた部が「高等学校かるた大会大阪府予選」において団体優勝し、滋賀県近江神宮で行われた全国大会に大阪府第1代表として出場しました。

### 国際交流・地域連携

市岡高校では現在、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、韓国の高校とそれぞれ交流事業を行っています。令和6年度の夏はオーストラリアでしたが、令和7年度にはインドネシアバリ島の高校へ短期語学研修に希望生徒が参加する予定です。来阪した海外の高校生の受け入れや、オンラインによる交流授業も積極的に行うなど、グローバルな社会で活躍できる人材の育成に力を入れています。



2024国際交流

また地域との連携事業として、同じ港区にある海遊館が主催する環境学習プログラムに毎年参加し、海遊館職員の方々と大阪湾に生息する海生生物の生態について、一年間を通じた定点調査を行っています。



大阪湾に生息する海生生物の生態の定点調査

## 令和6年度秋季スポーツ祭・ 第74回神霜祭を開催

令和6年10月31日(木)～11月3日(日)の期間を令和6年度体育・文化週間と称し、秋の学園祭である「令和6年度秋季スポーツ祭」と「第74回神霜祭」を開催しました。

11月3日(日)に開催した秋季スポーツ祭は、本学の学生が参加するスポーツ大会で、今回はバレーボール大会を実施しました。6チーム40人の学生が参加し、総当たり戦が繰り広げられました。

11月1日(金)～11月3日(日)の3日間で開催した神霜祭には延べ1,548人が来場しました。当日は、学生による飲食出店や屋内での作品出展、音楽系団体によるステージパフォーマンスなどで盛り上がりを見せました。

神霜祭を企画・運営した大学祭準備会委員長の吉崎アキラさん(学校教育教員養成課程 中等教育専攻 技術教育コース 2回生)は「今年の神霜祭では、ステージ企画や飲食出店に加え、大学祭準備会が中心となって企画したよしもとお笑いライブ、カラオケ企画と謎解きスタンプラリーを実施しました。2日目は荒天に見舞われましたが、最終日には秋晴れに恵まれ、どの企画も盛り上がりました。さまざまな出来事がありましたが、得るものが多く非常に充実した神霜祭となりました」と振り返りました。



飲食ブースでの集合写真



神霜祭でのステージ企画ライブの様子



秋季スポーツ祭の様子

## 大阪教育大学 創基150周年記念式典を開催

大阪教育大学創基150周年記念式典を、10月27日(日)にシェラトン都ホテル大阪で開催しました。式典は学生による司会挨拶で開幕し、本学教員と大学院生の演奏で310名の参加者を迎えました。続いて岡本学長が登壇し、来賓や卒業生、教職員への感謝の意を述べ、大学の歴史や今後の抱負について語りました。

式典には、文部科学省、国立大学協会、大阪府教育委員会、大阪商工会議所、各市長など、多くの来賓が参列し、本学の今後の教育界における役割への期待を表明しました。また、卒業生と海外の大学から送られたビデオメッセージが上映された後、「大阪教育大学の沿革と現状」を本学職員がプレゼンテーションしました。

式典の第2部として開催された記念講演会では、多様な分野で活躍する本学卒業生5名による講話が行われました。第3部の祝賀会は立食パーティ形式で行われ、参加者は歓談を楽しみました。

式典には、多くの方に来場いただきました。本式典は、本学がこれまでに成し遂げてきた成果を再確認し、新たな挑戦への決意を表明する場でもありました。参加した多くの卒業生や教職員は、この節目を機に一層の結束を固め、理想の教育を実現するために力を尽くす決意を新たにしました。

今後も本学は、地域、日本、そして世界の教育に貢献できるよう、教育・研究に全力を尽くす所存です。大阪教育大学の未来への挑戦に、ぜひご注目ください。



挨拶をする岡本学長



職員によるプレゼンテーション



記念講演会の登壇者



祝賀会の様子

## 編集後記

令和6年4月から連携交流事業に関わらせていただき、一人ひとりの高校生が自分の夢に向かって突き進む姿勢を拝見し感動しています。みなさんが「教育」という素晴らしい道を志していることに心から敬意を表します。日々の勉強や準備は、時に大変だと感じることもあるでしょうが、その努力の一つひとつが、未来のみなさんの生徒たちにとって大きな力になります。自分がどんな教師になりたいのか、夢や目標をしっかりと持ちながら、一歩ずつ進んでいってください。困難に直面したときは、初心を思い出してください。教師になりたいと思ったその気持ちには、きっと特別な理由があったはずで、その「想い」こそが、最大のエネルギーになります。未来の教壇で、生徒たちと笑顔で向き合うご自身の姿を想像しながら、今日の一步を大切にしてください。応援しています!

追伸、皆様にご愛読いただきありがとうございました。「学びの架け橋」は、2025年3月号発行のvol.27をもちまして、廃刊させていただくこととなりました。皆さまにおかれましては、長きにわたりご愛読くださりまして、誠にありがとうございました。今後は本学ホームページを通じて、情報発信してまいりますので、引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。(K)

# 連携交流事業

大阪教育大学

教員・学生

高校生育成プログラム  
「教師にまっすぐ」

出前授業  
「大教大レッスン」

大阪教育大学キャンパスガイド  
「大教大をまるごと  
体験しよう！」

高校訪問  
「大教大キューピッド」

作文コンクール  
“Leading to the Future”

メールマガジン  
「学びの架け橋」

生徒・教員

府立高校教職コンソーシアム

## 大阪教育大学のSNSアカウント



公式X(旧Twitter)

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。